

令和2年度 豊橋市健幸なまちづくり協議会歯科保健推進部会議事録

日時	令和2年12月24日(木) 午後2時30分から午後4時
場所	豊橋市保健所 第1会議室
出席者	豊橋市健幸なまちづくり協議会歯科保健推進部会委員10名
欠席者	1名
事務局	豊橋市健康部保健所健康増進課

議題(1) 豊橋市歯科口腔保健推進計画について

事務局 資料1-1、資料1-2説明。

A委員 愛知県における現状や取組状況について説明。
愛知県母子健康診査マニュアル(以下、マニュアル案とする)が大幅に改定され、来年度よりこのマニュアル案に基づき健診が実施される予定。
保護者への気づきを促し多職種から助言を行い、歯科医師には保護者からの相談に対応していただけるよう期待している。

B委員 歯乳幼児健診全体としてマニュアル案に合わせ変更予定について説明。

C委員 新問診項目の追加で、新たに現状把握され、保護者の困りごとを把握することで今後の対応の見直しに反映されることを期待する。

議題(2) 豊橋市口腔保健支援センター事業について

(ア) 令和元年度豊橋市口腔保健支援センター事業実績報告【資料2-1】

(イ) 令和2年度豊橋市口腔保健支援センター事業計画【資料2-2】

事務局 資料2-1、資料2-2に説明。

D委員 「オーラルフレイル」という言葉は、市民の方に身近な話ではない。
患者、一般市民の方に歯磨きの重要性や歯磨きの出来ない方に対してはマウスウオッシュ等を利用して口腔内を清潔にさせていただくこと、フッ素配合の歯磨き粉が第三類薬品で販売され手に入りやすくなっている事などを周知していく

E委員 健康経営の取組みとして、市内事業所で健康宣言をいただいて社員の健康を維持する事で、企業のイメージアップや生産性向上を目指していただいている。
歯の健康に関しても、今年度より新たに追加した。
コロナ感染症の拡大により、オンラインでの実施希望も多い。

C委員 講座の実施形態も工夫されている。DVD等活用できれば参加しやすくなる。
希望する企業が増える事を期待する。

(2)豊橋市口腔保健支援センター事業について

(ウ)豊橋市口腔保健支援センター調査・研究事業について【資料2-3】他

事務局	資料2-3説明。
F委員	参考資料4説明。 特に集団に所属していない方に参加を促すためにはどうしたらよいかを改めて考える必要があると感じた。予防の必要性に気づいていない方が大勢いる。
G委員	高齢者になる前の若い段階からオーラルフレイル対策が必要であるため、定期検診をしっかり受けてもらい、オーラルフレイルにならないようにしましょうということを、市と共に市民にアピールしていくことが大切である。
H委員	サルコペニアというフレイルの一つである全身の筋力が低下してくる状態があるが、最初に低下する部分は口腔の筋力であるということが最近判明している。 若年者の教育が家族を通じて全年代に認知してもらうことになる。 医師会としては、会員向け講演会等を通してオーラルフレイルへの理解を広げていきたいと考えている。
I委員	講座は、関心が高い人が多く参加してくれるが、一方で関心のない人に関心を持ってもらうことが今後の課題である。 オーラルフレイルという言葉が知らなくても、口腔機能向上の意識を持っている人はそれなりに多い。社会や地域に出て行くことで足腰が鍛えられ、それが口腔機能向上に繋がるのではないかと思う。 地域包括支援センターとしては、高齢者の閉じこもり予防や社会に出ていくことが出来る場を作ることを考えていきたい。
J委員	コロナ禍で研修会が開催できなかった事もあり、会員向けにマスクをしたままでできるお口の体操についてのリーフレットを発行して情報発信を行った。 歯科医院等で患者指導に活用できるとよいと考えている。 若年層にオーラルフレイルを知ってもらうための活動も行っていきたい。 口腔ケアに加えオーラルフレイルについても話をする事で、介護の負担も軽減することに繋がることを訴えていきたい。
C委員	オーラルフレイルの明確な基準はないが、まずはオーラルフレイルという言葉が市民に知ってもらうとともに関係者も理解を深めていきたい。 それぞれが協力して進めていければと思う。
事務局	乳幼児期の取組みについては、健診でデータをとってこれからの支援について検討していく。成人期については、特に働く世代への検診受診勧奨についてオーラルフレイルの観点も含めながら啓発していく。ライフステージごと具体的な対策を進めていきたい。